

文芸特集

たくさん作品の中から選ばれた秀作を紹介します。限られた字数の中に織り込まれた、さまざまな思いや季節の情緒をこまやかに感じてください。

一席

年賀状仕舞いが何と悪筆でどしどし綴る手書きの賀状

領家3 中川 美穂

評 時代の流れやらいわゆる「終活」やらに対する、作中主体のエレガントな反抗期感にうっとりさせられます。「悪筆でどしどし」という言い回しの躍動感たるや。生命力溢れるロックな一首。クール。

年賀状ちよい足し言葉書き込みで年に一度の思い巡らす

鳩ヶ谷本町4 佐羽みはる

「あれどこに」思い出せないもどかしさそれは人生重ねた証し

安行慈林 吉川 正秀

おそ咲きの短歌見ならいでも楽し良くも悪くも生きる楽しみ

芝高木2 田辺百合子

定年の無き主婦業のリタイアは無理とわかれどときどき願う

末広3 後藤 和子

恋しさは年ふるごとに増し増して古きアルバム生死も知らず

芝下2 中山千枝子

袖の木に蝶のぬけがら吹かれおり今日は毛糸を買いに行きたし

川口2 川久保百子

入院が長引くにつれ友や師の顔のシワさえ鮮明になる

安行原 山田 英一

北風に向かひて自転車漕ぐ脚に風が吹き付け勝負ともはや

並木元町1 詔石 麗子

瀬戸内の島々めぐる船旅はいつも心が「ウオー」とさげぶ

石神 高橋 秀明

長年、選者としてご尽力賜りました藤森巳行氏がご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

俳句

一席

小面の謎めく笑みや春の間

栄町3 高梨 武州

評 「小面」は、能面の中でも一番若い女性をあらわした面である。この作品の眼目は「謎めく笑み」にある。そこに能の真髓が集約されている。能も俳句も受け取る側で評価が決まる芸術である。

介護所の送迎車にも花吹雪

安行吉岡 會澤 光子

春の旅路傍の仏に手を合はす

西青木4 青柳 映子

梅満開空の青さを突き抜ける

新堀 小澤富美子

焼夷弾の炎となった雛飾り

芝西1 落合 八恵

沈丁花歩みを止めていただく香

戸塚東1 久須美節子

てのひらに大地の生気福寿草

芝園町3 小島かよ子

山茶花の咲くにも散るも生きにくし

西川口3 早乙女文子

穴道湖を染めて包んで春夕焼

芝 清水 幸子

姿見に写る桜に誘われて

八幡木1 民 けい子

五ヶ国語和して響くや花の宴

本町1 知念 哲夫

立春や余生楽しむことばかり

並木元町1 詔石 麗子

催花雨の恵み頂き宴かな

西川口4 中島由美子

あなただから届いた葉すみれ草

安行吉岡 橋本かず子

夕東風の隅田の流れ触れ太鼓

弥平1 水野きみ子

一席

星空に口角上げて写る月

上青木4 星野 明美

評 夜空を見上げると、その日の喜びや疲れがよみがえります。月が口角を上げてほほ笑むように見えることで心が浄化され、安らぎや楽しさが生まれます。ふと笑顔が浮かび、日常に幸福をもたらすあたたかな作品です。

児に還る母と添い寝のわらべ唄

上青木西4 星野 良一

A-1が心の隙間ノックする

飯塚2 入江 令子

うっかりして老のレッスン又忘れ

戸塚境町 稲垣 洋

横目にとカルガモ泳ぐ吾負ける

並木元町1 詔石 麗子

川柳

伊藤 真理子 選

長年、選者としてご尽力賜りました藤森巳行氏がご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。